

温室効果ガス排出量 検証報告書

2025 年 8 月 7 日

三和ホールディングス株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
サステナビリティセンター
上級経営管理者 前田 雅彦



1. 検証の対象及び目的

三和ホールディングス株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象※¹における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2024 年度算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2024 年度（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）の以下の GHG 排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 サステナビリティセンター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ 1 GHG 排出量

算定対象において使用された都市ガス、LP ガス、軽油、灯油、ガソリン、及び、事業者が使用した車両の軽油、ガソリンに伴って直接的に排出される CO₂ 排出量

2) スコープ 2 GHG 排出量

算定対象における電力、熱の使用に伴って間接的に排出される CO₂ 排出量

3) スコープ 3 GHG 排出量

算定対象の事業活動におけるスコープ 3 カテゴリ 1, 3, 11※²において排出される CO₂ 排出量

検証の目的は、事業者の GHG 排出量情報が算定方法※³に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し GHG 排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された GHG 排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って GHG 排出量情報の検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認を事業者の本社訪問を含め実施
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- 札幌工場への訪問による算定対象、データ収集手順確認、供給されたエネルギーのモニタリングポイントの現場視察
- GHG 排出量情報の正確性を確認するためのサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された 2024 年度の温室効果ガス排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1 ^{※4}	10,400
スコープ 2 ^{※5}	10,337
スコープ 3 ^{※6}	365,457
スコープ 3 内訳	
カテゴリ 1	272,650
カテゴリ 3	4,677
カテゴリ 11	88,131

NOTE:

※1：算定対象

三和シャッター工業株式会社の国内全 8 工場、及び、事業所 208 拠点

※2：スコープ 3 の各カテゴリの概要

- カテゴリ 1（購入した製品・サービス）：国内工場での製造に用いる購入した主要原材料を対象
- カテゴリ 3（スコープ 1, 2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動）：算定対象で使用した燃料、電力、熱を対象
- カテゴリ 11（販売した製品の使用）：電力を使用する国内向け製品（電動開閉機）を対象

※3：スコープ 1, 2, 3 の算定方法

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.7)」、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (ver.3.5)」、「国立研究開発法人産業技術総合研究所 IDEA Ver.2.3」、及び、事業者が作成した「GHG 排出量算定マニュアル (スコープ 1, 2)」、「カテゴリ 1 / カテゴリ 11 集計マニュアル」

※4：都市ガスの排出係数：ガス事業者別排出係数を使用

※5：電力の排出係数：電気事業者・メニュー別基礎排出係数を使用

※6：スコープ 3 の値(t-CO₂e)は各カテゴリの小数点以下も含めた合計値

以上